

町村週報

(町村の購読料は会費
の中に含まれております)

2279号

毎週月曜日発行

〒100 0014 東京都千代田区永田町 1 丁目11番35号 : 電話03 3581 0486番 FAX03 3580 5955

発行所 **全国町村会** 発行人 渡辺 明 : 定価 1部40円・年間 1,500円(税、送料含む) 振替口座00110 8 47697

閑話休題

厭なことを言うようだが、企業のリストラはこれから本番だと心得た方がよさそうだ。

第一は「会社あまり」である。私が言うのではなく、一時は「経営の神様」といわれたヒューダー・ドラッカー氏の言葉である。一九〇〇年の当初、アメリカの自動車会社は一千五百社だった。それが十年後には百五十社になり五十年後には「ビッグ3」になった。このように企業間では競争によって収れん作用が起こるものだ。いまは花形企業のインターネット業もそのうち二社になるに違いない。これがP・ドラッカー氏の意見である。日本でも、新技術の登場や大型合併によって企業の数が減っていく。現在はその流れに対して、「会社あまり」なのである。これが人員整理の



夏祭りの子

要因になる。第二は海外の格付会社による評価がスリムな経営構造を尺度にする。高収益を挙げているソニーが来年一月一日までにグループの上場会社三社を一社に整理し一〇%の人員整理(一万七千人)をすることに世界の潮流を読むことができる。第三は、ほとんどゼロに近い金利はいまの日本にと

大失業時代の読み方

つては異常値で、これが年金生活者の心理を暗くする一方で企業の自己革新をおくらせている。早晚、この異常値は正常値にむかって上昇するが、企業によっては有利子負債に見合っただる費の圧縮を断行せざるをえないだろう。第四は、これから三、四年もすると団塊の世代がいつせいに退職年齢に

達することである。

以上の四つの理由によって、日本の失業率は悪くすると一〇%に達するのではないかという予測を近頃は目にするようになった。

通産省の試算によると、二一世紀に成長が期待される産業は、流通物流(百三十兆円) 情報通信(百二十兆円) 医療福祉(九十兆円) 生活文化(四十兆円) 新製造技術(三十兆円) 八兆円) などが、地方にしてみれば旧来の産業構造から吐き出される人材を選(よ)り取り見どりできるチャンスだし、成長産業にとって魅力のある器づくりをする課題も見えてくる。大失業時代も見方を変えれば、「自立の時代」にもなるのではないか。

(評論家 草柳大蔵)

活動	新たな過疎対策の基本的考え方を示す = 国土庁・過疎問題懇談会(2)
フォーラム	精神文化 禅の里 = 石川県門前町(5)
情報	新任都道府県町村会長の略歴(8)
随想	遠い記憶「私の幼時体験」 埼玉県町村会長・花園町長 富田恵三.....(10)
情報	政策レーダー(11)

もくじ

新たな過疎対策の基本的考え方を示す

国土庁・過疎問題懇談会が中間報告

国土庁の過疎問題懇談会（座長・阿部統東京工業大学名誉教授）が、「これからの過疎対策について」の中間報告をまとめた。

この懇談会は、現行の過疎地域活性化特別措置法が平成十二年三月末をもって失効することから、失効後の新しい過疎対策の在り方について検討するため、昨年五月に地方振興局長の諮問機関として設置され、これまで十二回にわたって議論が行われていた。現行法の期限切れまであと十ヶ月足らずと迫り、新たな法律の制定についての議論や明年度政府予算編成作業も始まっていることから、とりあえず现阶段までの議論にもとづく新たな過疎対策の必要性和その基本的考え方を今後の過疎対策に反映させたいとして取りまとめられたものである。

なお、同懇談会は過疎問題に関する学識経験者七名により構成されており、過疎地域の地方公共団体からは、新潟県入道村長の須佐昭三氏が委員として参画している。中間報告の概要は次の通り。

時代潮流の変化と過疎地域の位置付け

二十一世紀に向けて、時代潮流が大きく変化する中、過疎地域の新たな位置付け

「豊かな自然環境と多様な地域・生活文化の継承・創出」

都市ばかりでなく、人口は少なくても豊かな自然や多様な生活文化をもつ地域社会を維持・発展させることは、我が国の風格ある美しい国土を創造する上で重要。

「地域バランスの構築と新たな生活空間、自立的地域の創造」

生活条件に未だ格差を残している

過疎地域を、国民一般が二十一世紀にふさわしく、豊かな自然環境のもと広い空間の中でゆとりある多様な生活様式を実現できる場として整備することは、都市地域に居住する人々にとつても豊かな生活を実現するために必要。また、情報化等社会資本整備の今後の進展を生かし、経済的にも地域自立への挑戦をすべき時。

「長寿高齢社会の先駆けとしての地域づくり」

全国に約二十年先駆けて高齢化している過疎地域では、福祉面で様々な先進的工夫が行われていたり、多くの高齢者が生きがいをもって自立的生活を営んでいるなど、高齢社会のパイロット・モデルとしての役割を期待されている。

1 過疎地域の現状と課題

過疎地域の人口は減少率はひと頃に比べると鈍化傾向が定着しているが、高齢者比率は全国に二十年程度先行し、自然減が重みを増しつつある。

過疎地域市町村内でも、中心集落と周辺集落では消長の状況は一樣ではなく、集落の再編成や機能の見直しが必要になってきている一方、広域圏単位でも中心都市の拠点性が発揮されている地域とそうでない地域では状況が異なるが、住民の生活圏は広域化しており、地域の捉え方には広域的視点が必要。

過疎地域の産業構造はかつての基幹産業の第一次産業が大きく後退し、現在では、多種多様な産業により住民生活が成り立つ実態にある。三十年にわたる過疎対策の結果として、各種公共施設・基盤の整備は相当程度格差を縮めてきたが、上下水道等生活の基礎の部分に大きな格差を残している。また、商業文化施設等民間の都市施設機能へのアクセスの向上なども大きな課題を残している。

各地で地域づくりに積極的な取組が行われ、地域特有の資源を生かして、小さくとも独自の個性をもった地域として、「心の過疎」を克服している地域もあり、自主的・内発的な振興の努力は今後ますます重要。

一方で、グローバル化、地域間競争、交流やコミュニケーションの飛躍的拡大、規制緩和、地方分権、住民参加など、時代潮流の大きな変化は、過疎地域の役割や位置づけにも大きな変化をもたらし、変化への対応も迫まるものとなっている。

2 これからの過疎地域の役割と過疎対策の意義

①安全・安心な暮らしの確保

従来の対策の考え方である道路、

政 策

通信基盤、上下水道、医療等住民生活の基本的部分のナショナルミニマム確保、地域格差の是正は未だ十分に達成されていない。過疎地域住民のためのみならず、国民の新たな生活の場としていくためにも、これらの社会資本整備はさらに強力に進めることが必要。過疎地域の国土保全是、国全体の安全な暮らしの確保に必要。

②多様で美しく風格ある国づくりへの寄与

二十一世紀の成熟した社会の美しく懐の深い風格ある国づくりは、機能的・効率的な都市地域とともに、人口が少なくても豊かな自然や多様な文化をもつ地域が、個々にも総体としても美しく風格あるものとして維持され、発展することで初めて可能となる。

都市的地域と過疎地域は、機能的にも相互に補完し合うものであり、連携・交流が不可欠。

③国民が新しい生活様式を実現できる場としての役割

過疎地域を、新規定住・半定住・交流による居住者・滞在者の生活の場としても整備することは、都市地域住民を含む国民一般が生きがいや自己実現のための新しい生活様式を実現する場を提供することになり、二十一世紀の真に豊かな国民生活のために重要。情報化等の社会資本整備の進展によって地域自立の可能性は高まる。

過疎地域の社会運営の在り方としても、交流・連携の時代にふさわし

いルールが求められる。

④長寿高齢社会の先駆けとしての役割

若者の数が相対的に少ない地域社会であっても、高齢者が安心して日常生活を送ることができ、高齢者が持てる力を十分に発揮し生きがいをもって地域社会を支える仕組みを作り上げていくなど、全国に先駆けて高齢社会のモデルとなる在り方を示すことが重要。

3 新たな過疎対策の基本的方向

①美しく風格ある個性的な地域づくり

今後は、自己責任原則、地域間競争を前提に、明確なコンセプトをもった、戦略的・重点的な施策の展開により、地域の個性化を推進する必要がある。

例えば、過疎地域の豊かな自然も、伝統的な町並みと同様に、意図的な努力を重ねなければ維持・保全することはできない。その意味で、人為的な景観の美しさの維持・創出とともに豊かな自然の意識的な維持も、過疎対策としてこれからの重要な施策の方向である。

②都市との交流による新しい生活様式の実現の場としての環境整備

都市住民との交流の機会と場を確保するとともに、過疎地域住民の側で都市を十分活用できるようにすることは人材育成等の面からも望ましいことである。

若者をはじめ新たな住民の参入を前提にし、生活環境基盤をはじめ社

会資本整備の推進とともに、開かれた地域社会の構築が求められており、都市住民と過疎地域住民間、世代・性別間等のコミュニケーションの機会の拡大に資する施策は重要である。

③多様な起業と人材育成による地域経済自立への挑戦

高度情報化や交通通信体系の整備を背景に、過疎地域においても個々には小規模であっても多種多様なアイデアをもとにした起業の可能性が高まりつつあり、こうした民間活動の積み重ねによって地域経済の自立を目指すことが重要である。そのため、自立意識の強い多様な人材の育成や導入も不可欠であり、併せて地域間交流などの場や見聞を広める機会を設けたり、情報を集積して地域の特性や優位性を周知する努力を、日常的にも施策の上でも推進するようにすべきである。

また、過疎地域への立地に際しては、市場情報の不足その他の懸念を抱えることも多いため、特に事業の立ち上がりにおけるこの側面への支援も重要である。

④地域間の連携と広域的対応の推進

地域間競争の中で多様な住民の要求に応え、質の高い行政サービスを提供し、社会としても自立的な地域を目指していくためには、市町村の境界にとらわれない、住民の視点に立った広域的な発想で、関連する地域が相互に機能を補完し合って連携していくことが必要である。

過疎対策としての各種施策は、行

政サービスの効率化の要請から地域社会の実態にふさわしい広域的な実施が必要となる場面がますます多くなっている。地方分権の受け皿整備としての自主的な市町村合併も含めて、広域共同的な事業の実施に取り組むことが必要である。

⑤長寿高齢社会の先駆けとしての地域社会の整備

全国に先駆けした長寿高齢社会のモデル地域として、生産、居住その他住民の生活のあらゆる場面において、高齢者が自らの持つ経験と能力を発揮して生きがいある生活をおくることができるとともに、福祉サービスを必要とする場合には人材、施設基盤等ソフト、ハード両面にわたって一段の充実を図り、快適に過ごせる地域社会を実現することが大切である。

4 具体的施策の分野別の方向

具体的施策を講じるに当たっては、各分野ごとに以下のような点を重視すべきである。

産業振興

・多様な業種について小規模ながら自立的な起業の推進

・生活環境や教育環境の整備による企業立地の促進

・情報関連産業の立地促進やテレワークの推進

・交通体系の整備

・広域的基幹道路の準備とネットワーク化

・規制緩和を活かして身近な交通手段の確保

政 策

情報通信システム等の整備

・地理的不利性克服のための情報化の推進

生活環境の整備

・新しいライフスタイルにふさわしい、住宅、上下水道等の基盤整備

高齢者対策

・豊富な経験と知識を生かした社会貢献の機会が得られるよう配慮

・情報システムを利用した健康管理などきめ細かな施策の推進

保健・医療・福祉の確保

・地理的条件の不利を克服する施設やアクセスの整備

地域文化と教育の振興

・個性ある地域文化の継承や新たな創造

・地域の実情に応じた教育機会の確保

集落機能の充実

・集落の再編や集落機能の広域的再構築

都市地域住民との連携、交流

・都市地域からの児童・生徒の受け入れ推進

・相談窓口やワーキングホリデー等

都市地域住民との連携、交流のための受け入れ態勢整備

過疎地域に関する情報の共有、提供

住民等多様な主体の参加

人材の養成、確保

5 支援施策の在り方

以下のような方向でさらに検討を加えて、具体的施策体系を構築していくべきものと考ええる。

これからの過疎対策は、市町村や都道府県が自主的に策定した計画に基づいて行う事業を支援する行政、財政、税制、金融その他の措置からなる総合的な制度の体系とすることが必要である。

支援の在り方としても、地域社会の将来に対して責任をもつ地域住民の自立的な発想を基にした市町村の主体的取組を第一義として、都道府県が協力し、国が支援する方法が望ましい。

特に、住民の生活行動や企業の経済活動等の広がりから、市町村、都道府県の境界を超えた施策の連携や広域的取組の必要性が高まっていることにかんがみ、広域的施策についての誘導策も必要である。

また、地域の個性化・自立化へ向けた斬新な発想で、戦略的な思い切った施策に取り組む積極的な姿勢の地域に対し重点的な支援を行うことが望ましい。

さらに、先進的、モデル的な取組に対し支援することも、これまでにない新しい事業への取組を容易にし、その成果を他地域に情報として周知できることから、引き続き重要である。

なお、行政に対してのみならず、企業、個人等民間の経済活動等に対する支援施策の一層の充実が必要である。

フォーラム

平成10年度 潤いと活力のあるまちづくり自治大臣表彰

住民参加のまちづくり



そばの市

現地レポート

石川県

門前町

精神文化 禅の里

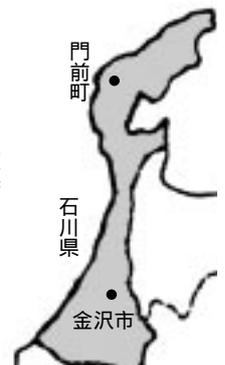
門前町といふところ

門前町は能登半島の北西部に位置し、金沢市から約100km、人口九三〇〇人。昭和二十九年三月三十一日に一町五村が合併し、さらに昭和三十一年隣接の村を編入し、総面積は一五七・五四km²でスタートした町です。

合併当時より、人口の減少が激しく、過疎化に伴う高齢化に拍車がかかり、老人人口比率も国・県の平均をはるかに上回るものとなっています。

町名の由来は、中世より曹洞宗大本山總持寺の寺口を中心に発達したことから門前町と名付けられました。町の基幹産業は農業ですが、過疎化と高齢化が後継者不足の要因となり、それが商工業にも人手不足としての影響を与えているのが現状です。日本全国どこにもある過疎の町ですが…

こうした中で知名度の高い能登半島を利用した観光によるまちづくりを掲げ、ハード面では宇宙観をイメージしたホテル「ビュー・サンセット」、天然ラドン温泉として有名な門前温泉「じんのびの湯」の開発、全国大会まで開催するまでになった「モータースポーツ公園」、数々の特産品を生み出している特産品開発センター「そば禅」等々の施設面での推進を図ることで、通過型観光から滞在型観光への転換とそれに伴う雇用の増大を図ってまいりました。



同時にのと空港の開港に希望を託し、交通網の整備、住宅団地の造成、企業誘致に努めています。近年は老人の町を逆手にとった「健寿の郷づくり」構想も進めています。

三〇・三kmの海岸線は能登半島国定公園に指定されており、泣き砂の浜をはじめ、奥能登最後の秘境といわれる猿山岬には北限、南限の植物が植生し、町の花ともなっている雪割草などの貴重な植物が群落をなしています。

歴史と伝統そして奥能登の大自然を擁する当町では、自然と人間、そして文化の調和したまちづくりに取り組んでおり、まんだら村「構想もその一つです。(まんだら…梵語でいう曼陀羅で道場とか本質の意とされ悟りの世界を表現したもの)

正式には町宮大生自然休暇村と称して、芸術、宗教、哲学など精神的なものを重視してじっくり自分を見つめ直す場所づくりのお手伝いを目指しています。

二七万平方メートルの敷地には著名人を始めとする別荘も建てられ、公園・野外劇場・思索の道などの整備が進められており、禅からの発想で新しい創造を目指す「まんだら村」は、ユニークなリゾート開発として注目されています。

フォーラム

曹洞宗大本山總持寺祖院



取り組みの概要

本町のまちづくりは昭和六十三年、自治省のふるさと創生事業として実施しました「日本海・文化交流会議」・・・日本海にかかわりのある市町村に来町を呼びかけ、それぞれの地域の共通課題等について語り合い、新たな文化創造の可能性を探ってきました。

本町はその中から「のと門前、日本海むら」構想を作り上げ、伝統・文化の発信基地を目指して参りました。「日本海・文化交流会議事業」を契機として町内全域に広がった町おこしという概念は隅々まで広がり、自分の地域を自分で活性化しようという機運（住民意識の高揚）が生じてきたのはまさに時代の波に乗ったといえるのではないでしょう

か。

過疎化と高齢化により、また世代間の断絶等、地域住民のつながりが希薄になる傾向がある今日、望ましい地域社会を営むことができなくなりつつある現状を危惧し、コミュニティ活動を積極的に支援しようとする意気込みは沸々と湧いてきたのでした。

花と緑のまちづくり

具体的には

昭和四十年代から取り組みが始まった花作りの環境も、石川県の花いっぱいコンクールへ参加し、最優秀賞に輝くグループが育つなどから、芽生えてきた花作りが、学校単位から保育園、更には地区民へと広がりが公民館周辺での婦人会活動へと波及して行きました。平成元年の日本海・文化交流会議」を契機として町内全域へ広がっていきました。

平成三年の石川県体の少年女子ソフトボール競技会場となったことで、よりいっそうの環境美化意識が高まりました。そんな中で平成四年には四季を通して花苗の供給ができる施設として「門前花と緑のセンター」を建設、年間五万本の苗を町内で活動の世話をしている方々に無料で配布できる体制ができました。

特産品づくり

海の幸が美味しい能登半島というイメージで、海産物以外に特産品としての開拓がなかったものを、町内で採れる一次産品を利用した特産品

を開発するため、平成二年のふるさとづくり特別対策事業により、「特産品開発センター」を建設し、町では指導者と事務員を配置し婦人会グループ、薬草研究会、そば作りグループ、食生活改善グループ、まちづくりグループがアイデアを持ち寄り、思考できる場所を造りました。

各地区で練り上げた素案をセンターに持ち寄り、異業種間で改良を加え、試作品を造り、イベントの際に来町した多くの方に試食して貰いその感想を受け商品化へと動き出しました。その結果、塩鯖をかぶに挟んだ「かぶら寿司」、大豆をひいて造った「大豆あめ」「そば」等々が生み出されました。そういう中から水稻から転作物としてのカボチャ、大豆、そば等の生産農家が増えて一次産業への波及効果が現れてきました

平成九年度には通年でそばを提供できるそば屋「そば禅」が営業を開始しました。

曹洞宗の門前で参拝者に振る舞われた門前そば、それは自然薯をつなぎに使ったコシの強いそばです。それからというものの、県内外のいたるところのイベントや物産展に参加して、「門前そば」（監院さんの命名）の名前を広めました。

結果、現在では年間十二万食のそばを提供できるようになりました。また昭和六十三年四月には地域の特産品を造り、村おこしを企画しようとする有志一五人で、阿岸という集落で七面鳥生産組合の設立が企画され、七面鳥の飼育を始めました。地域には、もともと愛玩用の七面鳥が居たことから飼育には慣れた人もあり、山形県に同じような飼育をしていると聞けばそこに出かけ、業者から二〇〇羽の雛を購入して活動を始めました。



能登・門前ファミリーイン、ヒュー・サンセット

フォーラム



そば打ち体験・「そば禅」にて

イベントによるまちづくり

地元の廃校跡地を町から借り受け、手作りの飼育舎を建て、関係機関の指導を受けながら飼育を始めました。それが現在では一二〇〇羽を飼育するまでになり、食肉処理棟の施設を整備し全国へ発送しています。七面鳥を題材とした食談会や七面鳥ラーメン、七面鳥そば、七面鳥うどん、七面鳥のステーキ、七面鳥の鍋等々の商品を生み出しました。健康食ブームに乗って、肉はさっぱりしていてこくがあり、低カロリー高タンパクの健康食品として人気があり、クリスマス・正月料理用として幅広く予約が入るようになりました。近年はアメリカ、オランダ大使館からも注文が来るようになったと関係者は手放しの喜びようです。同組合では今後更に増産体制に向けて、国内の先進地視察を行うなど、肉の捌き方や機械設備の充実を図り、本格的に市場を開拓して単なる肉生産主体から加工品の製造にも取り組み意欲を燃やしています。



七面鳥飼育場

平成元年から始まった全国的なふるさとづくり事業に端を発して、また前記した「日本海・文化交流事業」に影響され、全国有数の茅葺き屋根で知られ、また庭園内には天然記念物の桜木「阿岸小菊桜」のある阿岸本誓寺を中心に郷祭りを企画している阿岸の郷おこし会、地域の特産品である能登アテと竹を題材としたイベントを企画しているあすなろの里づくり会、海辺にすむ特産品を生かし、海と海産物を題材とした地域興しをねらっている海辺の祭り実行委員会、民謡能登表屋節の発祥地として、ま

た伝搬者である「お小夜」を偲び能登表屋節の伝承普及を図るため、能登表屋節全国大会を開くお小夜祭り実行委員会、曹洞宗大本山總持寺祖院を核として地域興しを狙い、はぎの植栽、精進料理の啓発に力を入れていく禅の里づくり委員会、貴重な観光資源である泣き砂の浜の保全と継承を目的に結成された泣き砂の浜を守る会・ふるさとの芸能文化の伝承を目的に、特に現今では珍しい村芝居の伝承等演芸会を主催している諸岡の里おこし会等が住民の組織として発生してきました。町ではこれらの企画を推進することとは、地域の産業はもとより住民の心の過疎を除去する効果があるものと考え、よりいっそうの発展を期しています。



能登表屋節全国大会

町による施設の設置

宿泊施設「ビュー・サンセット」
門前温泉じんのびの湯
平成二年八月温泉源探查開始
平成六年一〇月営業開始
毎分六七リットル湧出
モータースポーツ公園
全日本ダートトライアル選手権第四戦大会が開催されました。全国でも珍しい地方公共団体が運営するダートコースで、警察官、町の交通推進隊まで出動しての周辺の交通整理を行ったり、門前町の住民がブースを出したりと、まさに町挙げての雰囲気です。付帯設備も立派で選手たちの評判は上々です。

日本海夕陽写真コンテスト
日本海岸の夕陽写真展で、全国から応募し、今年で第九回目を向かえた。グランプリは賞金五十万円。能登表屋節全国大会
町行政がどれだけ施策を出しても、すんでいる人に響かないと意味がありません。実践し続けるのは町民の意気です。
(総務課補佐 貴山 敬)

●町村週報の購読●

「町村週報」の購読を希望される方は、八ガキに住所、氏名、職業、電話番号をお書きのうえ、全国町村会広報部へお申し込みください。年間一部千五百円。料金は請求書をお送りしてから折返し御送金ください。千一〇〇〇一四東京都千代田区永田町一・11・35全国町村会広報部。

情 報

新任都道府県町村会長の略歴

神奈川県町村会は、五月二十日の臨時総会で次のとおり会長を選出した。神奈川県町村会長 津久井郡城山町長

北島 厚

昭和六年十二月一日生



【住所】津久井郡城山町原宿二一〇三

【町村長に当選するまでの経歴】

昭和二十五年川尻村役場奉職 五十五年助役 五十九年城山町長

【町村長としての当選回数】四回

【町村会関係の経歴】平成七年神奈川県町村会副会長

【主な業績】 非核平和都市宣言

川尻水源地区の土地区画整理事業完成 中沢中学校建設 小倉スポーツ広場とこだまプール建設 保健計画策定 相模川流域下水道供用開始

都市緑化推進基本計画策定 新総合計画策定 保健福祉センター建設 健康都市しるやま宣言 総合環境保全条例制定 老人保健福祉計画策定

しるやま自然の家建設 公文書公開条例制定 行政手続き条例制定

個人情報保護条例制定

【趣味】読書

【家族】子供二人、孫四人

千葉県町村会は、五月二十八日の定期総会で次のとおり会長を選出した。千葉県町村会長 長生郡睦沢町長

河野 功

大正七年三月十日生



【住所】長生郡睦沢町上之郷二一四七番地一

【町村長に当選するまでの経歴】

昭和四十七年睦沢村議会議員 五十五年睦沢村議会議長 六十年睦沢町長

【町村長としての当選回数】四回

【町村会関係の経歴】平成七年長生郡町村会長 九年千葉県町村会副会長

【主な業績】 六十一年ふれあいと自然の香るゆたかさのあるまちづくり基本構想の策定 睦沢ゆたあい館建設 全国優良町受賞 寺崎やすらぎの森完成 大下橋・下宿橋・ふれあい橋完成 防災行政無線開局 中学校大規模改修工事 むつぎわ中央団地造成 歴史民俗資料館増設 町内全域花いっぱい運動展開 中学校海外研修開始 農村環境改善センター建設 農村総合整備モデル事業

完成 中学校コンピュータ教室設置 人家道舗装整備 役場庁舎建設 総合運動公園建設 農業集落排水事業着手

【趣味】写真

【家族】妻、長男夫婦、孫一人

岐阜県町村会は、六月一日の評議会次で次のとおり会長を選出した。

岐阜県町村会長 武儀郡武儀町長

熊澤 昌之

昭和六年四月二十一日生



【住所】武儀郡武儀町富之保六一三二番地

【町村長に当選するまでの経歴】昭和五十年武儀町議会議員 六十二年武儀町議会議長 平成三年武儀町長

【町村長としての当選回数】三回

【町村会関係の経歴】平成九年武儀郡町村会長

【主な業績】 生活基盤と環境整備(道路網の整備、水道施設の整備、下水道処理施設の建設、オフトーク通信「エコピアトーク・むぎ」の開

設) 社会福祉の推進(保育園の建設、町営住宅の建設、国保診療所施設の整備) 産業の振興(日本平成

村花街道センターの建設、米穀乾燥処理施設の建設、農畜産物処理加工所の建設、平成自然公園整備) 教育・文化の振興(生涯学習センターの建設、地区集会所の建設)

【趣味】読書、釣り

【家族】妻、娘

秋田県町村会は、六月二日の臨時総会で次のとおり会長を選出した。

秋田県町村会長 平鹿郡大森町長

阿部 勝行

昭和三年四月二十日生



【住所】平鹿郡大森町坂部字矢走一三三番地

【町村長に当選するまでの経歴】

昭和三十一年大森町議会議員 三十九年大森町助役 四十六年大森町消防団団長 四十七年大森町長

【町村長としての当選回数】七回

【町村会関係の経歴】昭和五十四年平鹿郡町村会長 平成五年秋田県町村会副会長

【主な業績】 企業四社を誘致し雇用の拡大を図る スポーツレクリエーション、宿泊施設完備の「大森リゾート村」建設 特別養護老人ホーム「白寿園」オープン、「南部

情 報

シルバーエリア」誘致 県内初の老人訪問看護ステーション事業開始
大森健康温泉オーブン 集落排水事業等の導入、上下水道整備 「健康の丘おおもり」町立大森病院・老健おおもり・高齢者等保健福祉センター設置 インターネットプロバイダー事業 ネットおおもり」スタート
特産品 大森ワイン」の開発販売
【趣味】パソコン、読書、こけし収集、ゴルフ

【家族】妻、娘夫婦、孫一人

鳥取県町村会は、六月三日の定期総会で次のとおり会長を選出した。
鳥取県町村会長
西伯郡淀江町長



森 和 夫
大正十二年八月三十一日生

【住所】西伯郡淀江町大字富繁二〇七番地

【町村長に当選するまでの経歴】

鳥取県内小・中学校教員 鳥取県教育委員会指導主事・教育事務所長
小・中・養護学校長 町教育長 昭和五十八年淀江町長

【町村長としての当選回数】四回

【町村会関係の経歴】平成元年西部町村会副会長 二年西部町村会

長 九年鳥取県町村会副会長

【主な業績】 役場庁舎の移転と新築 古代文化財を生かした町づくり事業の推進（伯耆古代の丘公園の建設、上淀廃寺跡の発掘と彩色仏教壁画の発見） 町づくり市町村道整備事業による道路網の整備 下水道事業の推進と水資源の保全 福祉の町づくりを目指した地域福祉充実のための福祉委員会制度の定着と福祉施設の誘致と充実

【趣味】読書、書画の鑑賞

【家族】妻、長女夫婦、孫二人

愛媛県町村会は、六月四日の臨時総会で次のとおり会長を選出した。
愛媛県町村会長

東宇和郡宇和町長



宇 都 宮 一 象
昭和五年一月二十二日生

【住所】東宇和郡宇和町大字久枝甲一三八五番地

【町村長に当選するまでの経歴】

昭和三十三年宇和町議会議員 五十二年宇和町農協専務理事 五十七年宇和町長

【町村長としての当選回数】五回

【町村会関係の経歴】昭和五十八年東宇和郡町村会長 同年愛媛県町

村会評議員

【主な業績】 小・中学校、文化会館・公民館等の建設 宇和文化の里の整備 米博物館、先哲記念館の建築 デイサービスセンター・在宅介護センター・保育園・健康推進センターの建設 宇和病院の充実整備 保健センター・火葬場の建設 宇和運動公園の整備 れんげ団地等の造成 農業集落排水事業の推進 ダイコク愛媛工場等の誘致・野田工業団地の造成 町民と町長を結ぶ「ホットライン」の開設・町民セミナーにより町民総参加の開かれた町政の推進 防災行政無線施設の整備

【趣味】読書、俳句

【家族】妻

富山県町村会は、六月十日の臨時総会で次のとおり会長を選出した。
富山県町村会長

上新川郡大沢野町長



中 斉 忠 雄
昭和六年十月一日生

【住所】上新川郡大沢野加納二二三番地

【町村長に当選するまでの経歴】

昭和四十六年大沢野町議会議員 五十四年大沢野町議会議長 六十一年

大沢野町長

【町村長としての当選回数】四回
【町村会関係の経歴】昭和六十一年富山県町村会理事 平成五年富山県町村会副会長
【主な業績】 大沢野町健康福祉センター（ウインデー）等健康福祉関係施設整備の推進 在宅福祉、特別養護老人ホーム、老人保健施設の整備促進 都市計画街路、下水道事業 広域基幹林道事業、中山間地域総合整備の推進 企業団地整備、企業誘致等の促進及び商工観光地施設整備の推進 猿倉山フェスティバル、春日温泉祭等まちおこし事業の推進 大沢野町総合計画、地域福祉計画、児童育成計画、介護保険計画の策定

【趣味】スポーツ

【家族】子供夫婦、孫

随 想

「遠い記憶
私の幼時体験」

埼玉県町村会長
はな 園 町 長
富 田 恵 三

随 想

朝霧に煙る木々の隙間を斜光線が通り抜け、早起きの鳥たちが、賑やかに会話を交わす。空腹なのか朝食を催促する牛たちの合唱が始まる。西の山々は、ベージュのセーターから緑のシャツに衣替えを済ませた。秩父山系に源を発した荒川が、ゆつくり蛇行して関東平野に顔を出す。その荒川扇状地の要の部分に花園町がある。

一昔前までは、養蚕が盛んで、昭和三、四十年代には、日本一の出荷量を誇ったこともある。しかし、今では、繭価の低迷で養蚕農家は、僅かになってしまった。

蚕は「御蚕様」と崇められ、物置はもちろん、住宅の大部分が飼育場となっていた。人間は炊事場の横の小さな空間に、肩を寄せあつて暮らす毎日であった。

年数回の養蚕時には、寝る時間を惜しんで働く大人たち。それを横目

に子供たちは、おはしやぎしていたものである。

蚕は敏感な虫で、桑を与える時間、繭を作り始める時期の見極めなど、長年の経験がものをいう。これを即座に判断し、指揮を取ったのが女たちである。「かかあ天下と空っ風」はこのような男女の力関係から生まれた言葉だと聞いている。

我が家でも、多分に漏れず母が農業の担い手であった。私たち兄弟三人を含む総勢七人の炊事、洗濯をこなした。日の出前には起き、暗くなっても働き続ける姿は、とても頼もしく見えた。

その母が特に忙しくなったのは、父が脳溢血で倒れた昭和十六年からである。幸い軽度で済んだが、再発を心配して、それ以降父は畑に出ることはなかった。父、母共に四十八歳、そして、私が十七歳の春のことであった。農業高校に在学中の私は、

大学へ進学して農業化学を勉強したいと思っていた。しかし、父の病を機に家業を継ぐ決心をした。

特に目立った少年でもなかった私であったが、あることをきっかけにして読書好きな少年へと変貌した。手前味噌になるが、小学校に入学したとき、すでに高等科の教科書を読みこなしていた。これは、虫歯の陰である。

五歳の時である。余りの痛さに、父が私を自転車の後ろに乗せて、歯医者へ連れて行ってくれた。抜歯、消毒と痛さに堪えながら治療を済ませた。これで、すべてが終わるはずであった。ところが、私の病状は日増しに悪化していった。極端な表現かもしれないが、私の顔の大きさは倍くらいになってしまっていた。

両親の慌て様をみて、私も不安を隠せなかった。結局、歯科医の紹介状を持って、東大病院へ行くことになった。この時我が家は農繁期のため、祖父に連れられ診察を受けた。医師の診断は即入院。このまま放置すれば命の危険すらあるとのことであった。以後半年間、私は窮屈な病院生活を送ることになる。もちろん事の重大さを、知る由もなかった。

白い壁に被われた病院の暮らしは、退屈の連続であった。病室の窓から見下ろすと、人や車が忙しそうに動き回っている。蟻の社会のようだ。目にするものすべて珍しく、少しは心を癒してくれたが、それも数日間のことであった。

そんな私のストレスを、癒してくれたのが本であった。入院が長くなるらしいという話を聞いて、東京在住の叔母がたびたび見舞いに来てくれた。叔母は、そのたびに本をたくさん持ってきてくれる。私も、いつしか叔母の見舞いを心待ちするようになっていた。

漫画本からスタートした退屈紛れの読書であった。しかし、いつしか病院内の本棚に置かれた大人向けの本にも興味を持つようになり、読書の面白さに引かれてしまった。お陰で、病院内では読書好きのおとなしい少年で通っていた。

退院の日、看護婦さんから「ご褒美よ」と玩具のサーベルをいただいた。鞘から抜いたサーベルは、銀色でキラキラ光り、近所の子供たちに自慢したものであった。

六十八歳の今、私の読書好きは続いている。そして、歯の大切さを身をもって体験したことから、歯は大切にしている。また、痛みに堪える我慢強さもこの時培われたものと思っている。幼少の記憶がこれほど鮮明に残っているのかと、首をかしげる方も多いのではないか。しかし、私の心には克明に残されているのだ。五歳の、それも半年間の幼時体験が、私の人生観の礎を築いたと言える。



情 報

政策リーダー

政策リーダー

新しい全国総合資源計画(ウォータープラン)21) 策定
ー 国土庁 ー

国土庁はこのほど、「新しい全国総合水資源計画(ウォータープラン21)」を策定した。

同計画は、我が国の長期的な水需給の見直しを示すとともに、今後の水資源の開発、保全及び利用に関する基本的方向を明らかにしようとするもので、国及び地方公共団体が水資源に関する総合的な諸施策を検討する上での指針的役割を果たすものと位置づけられている。

計画では、健全な水循環系の確立に向けて、「いつまでも瑞々しい国土を目指す」というスローガンを掲げた上で①水に関する危機管理施策の充実や用途、役割に応じた水質の確保等を求めた「持続的水利用システムの構築」、②潤いのある水辺空間の創出など水の有する多面的な機能の発揮等を求めた「水環境の保全と整備」、③水を介した地域の交流連携の推進等を求めた「水文化の回復と育成」を基本目標として挙げ、各種施策の展開を求めている。

また、目標達成年次とした二〇一〇年(一五年)における水の使用量として、①生活用水を一人当たり一日約三六五リットル(平成七年度実使用量比四三%増)、全体では年間約一六六・五億m³(同二五・三億m³増)、②工業用水は約六四三・七億m³(同九・五億m³増)、③農業用水は約六三三・〇億m³(同二・八億m³増)等を消費する見通しをたてている。

地域戦略プラン四六〇件認定

政府の地域戦略プラン推進連絡会議は、全国から提出された四六〇件の地域戦略プランについて認定し、事業規模で四兆三十一億円、全国の自治体の約九九%に当たる三一九市区町村が参画することとなった。

これは、小淵総理が提唱した「生活空間倍増戦略プラン」の一環として、活力とゆとり・うるおい空間の創造のために実施されるもので、トータルプロジェクトとして広域的な生活、経済圏の形成の観点から、事業効果の高いものとする必要性に鑑み、関係地方公共団体の広域的な連携のもとに策定されたもの。

プラン別では、①交通空間整備(七七)②地方定住・交流拠点整備(七四)③遊空間・観光空間整備(六六)④田園・森林・沿岸域・中山間地域空間整備(四六)⑤都市居住環境整備(四二)等のテーマによるものが多く、また、新規事業が四割強、地方単独事業が約一割、ソフト事業も約四%盛り込まれている。

今後、各地域での事業の実施にあたり、関係省庁が一体となり、重点的な予算配分等により最大限の支援を行うこととしている。

なお、主な策定例としては、陸奥湾保全・再生プラン(青森)、宮川流域ルネッサンス事業の推進(三重)、瀬戸内しまなみ海道交流空間拡大プラン(広島・愛媛)、伊万里湾海遊ネットワーク構想(佐賀・長崎)などがある。

平成十年産野菜の作付面積等を公表

農水省

農林水産省は、このほど、平成十年産野菜の作付面積、収穫量及び出荷量を公表した。

これによると、作付面積は、五六万ヘクタール(対前年産比二%減)、収穫量は、一、五七〇万七、〇〇〇トン(同比六%減)、出荷量は、一、二六八万七、〇〇〇トン(同比六%減)となっている。

作付面積では、ネギやトマト等が前年並みであったのに対し、キャベツやはくさい等が前年産市場価格の低迷等により他の野菜への転換等が見られ、前年産に比べて一〜三%減少している。

また、収穫量では、日照不足や八月下旬以降十月中旬までの長雨及び台風等の影響により肥大不良や腐敗等の被害が発生したことから、カリフラワー、ブロッコリーが前年産に比べてそれぞれ二四%、十三%減少する等、ほとんどの野菜が収穫量を減らす中、タマネギが、大産地の北海道においておおむね天候に恵まれ、前年産に比べて八%増加している。

出荷量は、収穫量の減少に伴い軒並み減少しており、特に、台風、長雨等の影響を大きく受けたばれいしょが、前年産に比べて十一%減少している。